

令和5年度第1回小金井市児童館運営審議会

日時：令和5年5月24日（水）午前9時30分～

場所：小金井市役所第二庁舎8階801会議室

次 第

1 開会

2 議題

- (1) 児童館のあり方検討に向けた課題の整理について
- (2) その他

3 閉会

【配布資料】

- ・児童館のあり方検討に向けた意見一覧（資料14）

児童館のあり方検討に向けた意見一覧

対象世代	検討すべき課題や今後の取組	課題解消や取組により見込まれる効果 取り組みに当たっての課題等
乳幼児 (未就学児)	乳幼児と小中高校生のふれあいの機会を設ける	【効果】 小中高校生の育児体験、社会参加 【課題】 実行可能な参加者への広報活動の検討 中高校生の受験勉強、クラブ活動との両立
	マタニティクッキングの再開に向けて 離乳食教室の再開に向けて	【効果】 乳幼児のバランスのとれた食事を推進し健全な 発育を図る。 親子の交流の場になる。 発達段階に応じた食の情報提供は母親への大き な手助けになる。 【課題】 新型コロナウイルス感染症の流行状況に留意し ながら実施すること。
	保育園前の0、1歳親子の利用が増えていると聞 く。子どもの育ちを支援する事業として、子どもの 権利条約について(あそび・休息・意見・たすけて 等)も早くから伝える必要がある。	大人都合の生活リズム等になりがちな保育園生 活において、知ること気付くことで意識が少し変 わるのではないだろうか。
	上記と同様の状況においては、地域との繋がりを 得ぬまま、家庭と園の中だけでの子育てになる可 能性がある。地域に子ども自身・保護者が「助け て」を言える繋がりをつくる大切さを伝えることも 必要。繋がりがづくりとしても2番目の地域との協働 が重要ではないか。	
	常設の子育てひろばを全館に拡充することで利 用者の一層の増加と情報交換の場としての活用 を図り、子育ての負担軽減を促進する。	身近な場所で具体的な相談や学習に接するこ とで、子育てに対する負担と不安の軽減を図ること ができる。
小学生	不登校児童が増えていると聞く。専門支援は別 の機関があるとは思いますが、子ども自身が住む地 域に学校とは別の居場所がある必要を感じる。 児童館はその居場所の1つとなりうると考える。	
	現在小学校で行われている放課後子ども教室の 児童館版を土日にも拡大し、平日利用のできな い小学生に安全な遊びの場を提供する	参加者相互の交流を通して子どもたちの成長に 繋げることが可能だが、安全な場所の確保とコー ディネーターとなるボランティアの確保が最優先と なる。また、調整に時間を要することが避けられ ない。
中・高校生	児童館利用経験者を中心にした仲間づくりと地域 に役立つボランティアの育成を図る。	グループ活動や地域でのボランティア活動を通し て社会性を育み、人の役に立つことを知ること で自らの成長に繋げることが期待できる。
その他・全体	第一小学校など小学校区近辺(子どもが自分で いける距離)に児童館がない地域がある。その地 域での児童館機能を兼ね備えた公共施設の設置 や、既存の公共施設や公園を利用した移動児童 館、野外プレーパークの開催を増やすなど日常 的な居場所となる公共の場の確保が課題であ る。	
	今後数年間は児童数の増加が見込まれていたり、 生活スタイルの多様化で子ども達の居場所 に対するニーズも様々になっているように思う。児 童館がその全てを担うことは不可能であるので、 市の事業や市民活動などと協働することが必要 ではないか。	児童館は公共事業として、保護者からの信頼感 はあつく、それと協働することで子ども達や保護 者へ居場所になりうる活動の周知が可能となる。 子どもが自ら選択できる場を増やすことに繋がる と考える
	児童館の認知度を高め、更なる利用促進を図る 為にホームページやネットワーク等を今まで以上 に活用し、PRする。	児童館の魅力をもっと知ってもらうことで利用促進 を図ることは可能だが、従来の方法に加えて何 が必要であり、どう成果に繋がられるかが課題。